

令和6年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 横代 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、6年生を対象として、令和6年4月18日（木）に、「教科（国語、算数）に関する調査」、文部科学省が指定した日（4月10日から4月30日の間）に「児童質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思えます。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、算数）

教科に関する調査（国語、算数）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

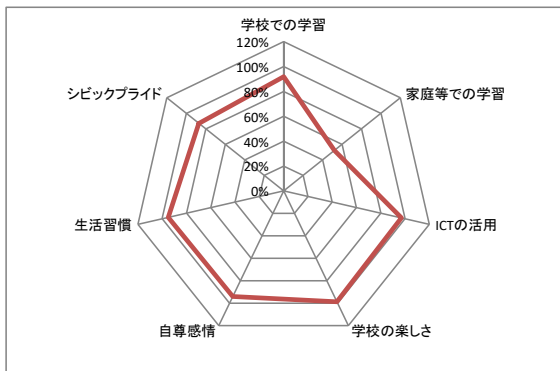
(1) 全国・本市の学力調査（国語、算数）の結果

本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.3	66	9.6	60
全国	9.5	68	10.1	63

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	全体的には全国平均を下回っていたが、「選択式」の問題や問題文を参考にしながら記述する問題の正答率は高かった。漢字を文の中で正しく使う問題や考えをまとめて書く問題の正答率が低く、自分の考えが伝わるように書き表すことに課題がある。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	問題文を参考に、目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書く問題の正答率が比較的高かった。	下回っている
	努力が必要な問題	人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりして自分の考えをまとめ、文章に書く問題の正答率が低かった。	
算数	全体的な傾向や特徴など	選択式の問題や短答式の問題形式の時は、全国平均より上回るものもあった。二つ以上の情報を結び付けて式に表したり、求め方を言葉を用いて記述したりする問題の正答率が低かった。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	円グラフから割合を読み取ったり、折れ線グラフから必要な数値を読み取ったりする問題の正答率が全国平均より高かった。	下回っている
	努力が必要な問題	計算に関して成り立つ性質を活用して、計算の仕方を考察し、求め方と答えを式や言葉を用いて記述する問題や、示された情報を基に、表から必要な数値を読み取って式に表す問題の正答率が低かった。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

- ・基礎的・基本的な内容の定着を図るために、ドリルアプリを活用し、補充学習に取り組むようにする。
- ・学習のまとめやふり返りの場面に、「書く活動」を位置付け、自分の考えを表現することができうようにする。
- ・効果的なOJTの推進を図り、教師の授業力の向上を図る。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・学校だよりや学年・学級通信で、家庭学習の重要性について、児童だけでなく保護者にも啓発していく。
- ・宿題の量や内容を発達段階に応じて用意することで、意欲をもって家庭学習に取り組めるようにする。
- ・引き続き低学年は、宿題プリントに保護者のサイン欄を設けることで、家庭との連携を図れるようにする。